国連大学とSDGs関連の活動について

第149回日本ユネスコ国内委員会総会

国連大学サステイナビリティ高等研究所
所長　山口しのぶ

令和3年9月15日

UNITED NATIONS UNIVERSITY

UNU-IAS

Institute for the Advanced Study of Sustainability

国連大学サステイナビリティ高等研究所
UNU Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS)

- 国連大学のサステイナビリティに関する研究・教育機関
- 戦略計画2020-2024に基づき研究、高等教育、能力開発、パートナーシップ、アウトリーチ、ナレッジマネジメント等の活動を実施
- 戦略計画の方向性：研究及び教育プログラム間のシナジー強化、マルチステークホルダーパートナーシップの強化、国際枠組み、各国政策への貢献
- 喫緊の課題への対応：SDGs、カーボンニュートラル、グリーンリカバリー、DXなど

THE GLOBAL GOALS
For Sustainable Development

UNU-IAS 研究テーマ領域

1. 持続可能な開発のためのガバナンス

本研究所の知識、専門性、パートナーシップを活用し、持続可能な開発のためのガバナンスと政策立案プロセスを強化すると同時に、喫緊のグローバル・アジェンダをローカライズしていくことを目指しています。

2. 生物多様性と社会

自然と調和した生活に向けた社会変革を推進し、ポスト2020生物多様性枠組を実現するためにエビデンスに基づいた情報提供を行います。

3. 水と資源管理

水に関する様々な危機を克服するために地方分散型の持続可能なアプローチを開発し、レジリエンス（災害などからの回復力）を高め、脱炭素化と循環型経済の構築を助けます。

4. イノベーションと教育

政策志向型の研究と能力育成、パートナーシップを通じて、より持続可能な社会変革を目指し、知識の構築と生涯学習の実現を推進します。

ESDに関する地域拠点(RCEs)

UNITED NATIONS UNIVERSITY
UNU-IAS

REGIONAL CENTRE OF EXPERTISE ON EDUCATION FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT

ACKNOWLEDGED BY

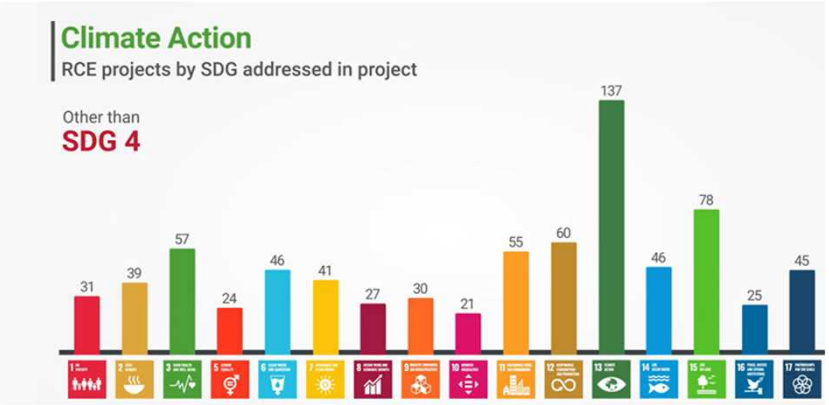
UNITED NATIONS UNIVERSITY

- 国連大学が認定するESD推進のための地域の拠点(日本には8拠点）
- 認定数：181拠点（2021年9月1日現在）
- 地域レベルにおいて、ESDや持続可能な開発を推進するためのマルチステークホルダーから成るネットワーク
- 分野横断的な情報共有、対話、協働を促進するためのプラットフォームとして機能し、地域の課題解決に貢献
- UNU-IASの役割：「グローバルRCEサービスセンター」として世界のRCEネットワークのガバナンス強化、連携促進、調査・研究、情報発信等
- 「RCEコミュニティのためのロードマップ2021 - 2030」を策定（2021年6月）

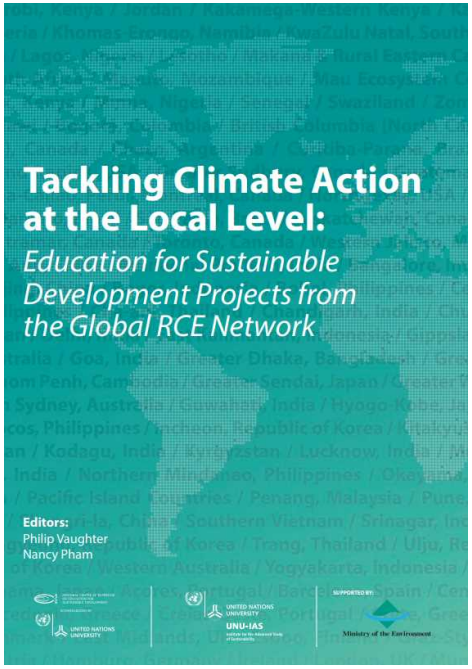
RCEと気候変動教育

UNITED NATIONS UNIVERSITY
UNU-IAS

GAP期間中（2015-2019年）RCEプロジェクトとSDGs



- 46か国にて479のプロジェクト
- SDGs4以外ではSDGs13に貢献する事業が最多



「地域レベルにおける気候変動対策：グローバルRCEネットワークのESDプロジェクト（2021)」

出版物　ビデオ

RCEによる活動事例

RCE東ウガンダ広域

森林保全のためのマルチステークホルダーによる調査、研修、意識向上

RCEボゴタ（コロンビア)

若者をターゲットにした都市部における低炭素で持続可能なライフスタイルの普及

RCE岡山（日本）

科学館におけるバーチャルリアリティ等を活用した小中高生向きの講座

RCEデンマーク（デンマーク）

持続可能な建築促進のための職業訓練を通じた大工の育成

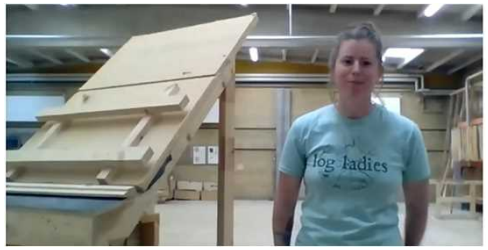
RCEと気候変動教育

UNITED NATIONS UNIVERSITY
UNU-IAS

RCEユース・ウェビナー（国際ユースデー記念イベント）

「気候変動に関する若者の声、持続可能性のためのアクション」
2021年8月11日

基調講演
RCE西シドニー広域
「持続可能性のためのユースの声と行動」



事例発表
RCEボゴタ（コロンビア）
RCEデンマーク（デンマーク）
RCE岡山（日本）
RCEルサカ（ザンビア）

気候アクション促進の鍵（分科会の議論より）
学校における気候変動対策の取組・授業の実施、意識向上、コミュニティの参画促進、知識の共有等

RCEユース気候アートチャレンジ

- ◆ 気候変動への意識向上・行動促進に向けたキャンペーン
- ◆ RCEの若者から作品（絵や写真等）を募集中
- ◆ 作品はグローバルRCE会議にて発表

グローバルRCE会議

2021年11月16~18日
（オンライン）

- ◆ テーマ：「SDGsの達成に向けて：世界的危機の時代における学びを通したアクション」
- ◆ 基調講演、事例発表、ワークショップ、オンライン展示等

主催：RCEスコットランド、グローバルRCEサービスセンター

最新情報はこちら→ RCEポータルサイト https://www.rcenetwork.org/portal/

ユネスコとの連携

UNITED NATIONS UNIVERSITY
UNU-IAS

ESDに関するユネスコ世界会議
（2021年5月17日-19日）

◆ ブース出展・ライブセッションの開催
◆ 2つの分科会におけるファシリテーション・発表
（優先行動分野5（地域における持続可能な解決の促進）や高等教育に関する分科会）

ESD for 2030推進のためのウェビナー
（2021年7月1日）

◆ ステークホルダー・ダイアログ「ESD for 2030に向けたシナジー　：Learn for our Planet, Act for Sustainability」
◆ ユネスコ、文部科学省、環境省、RCE横浜ユース、UNU-IASのよる発表、パネルディスカッション
◆ ウェビナーの録画はGEOC YouTubeチャンネルで視聴可

気候変動による移住と教育の権利に関するユネスコとの共同研究事業

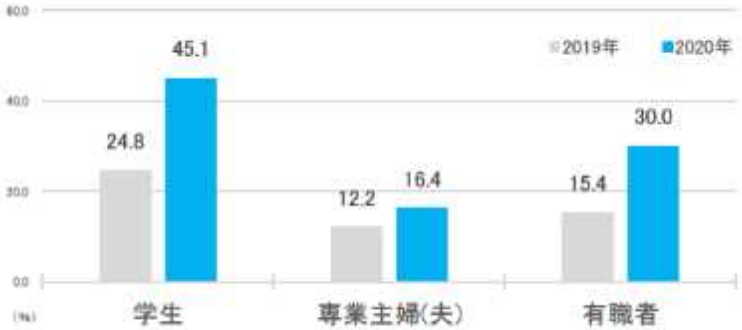
◆ 目的：様々な気候変動に起因する災害により移住を余儀なくされた人々の教育の機会を担保するために、エビデンスに基づく政策提言を行うこと
◆ 調査対象：UNU-IASの対象はインド、インドネシア、ツバル、ベトナムの4カ国
◆ 成果：ポリシーブリーフやウェビナーを通じて公表

UNESCO Futures of Education

◆ 目的：知識や教育、学習を再構築し、未来を創るためのグローバルな対話を促進するイニシアティブ
◆ UNU-IASは諮問委員会の委員として参画

SDG大学連携プラットフォーム（SDG-UP）

UNITED NATIONS UNIVERSITY
UNU-IAS



学生のSDGsの関心度が向上
・学生の4割以上がSDGsを認知
・前回調査より20ポイント以上増加（電通調査）

目的

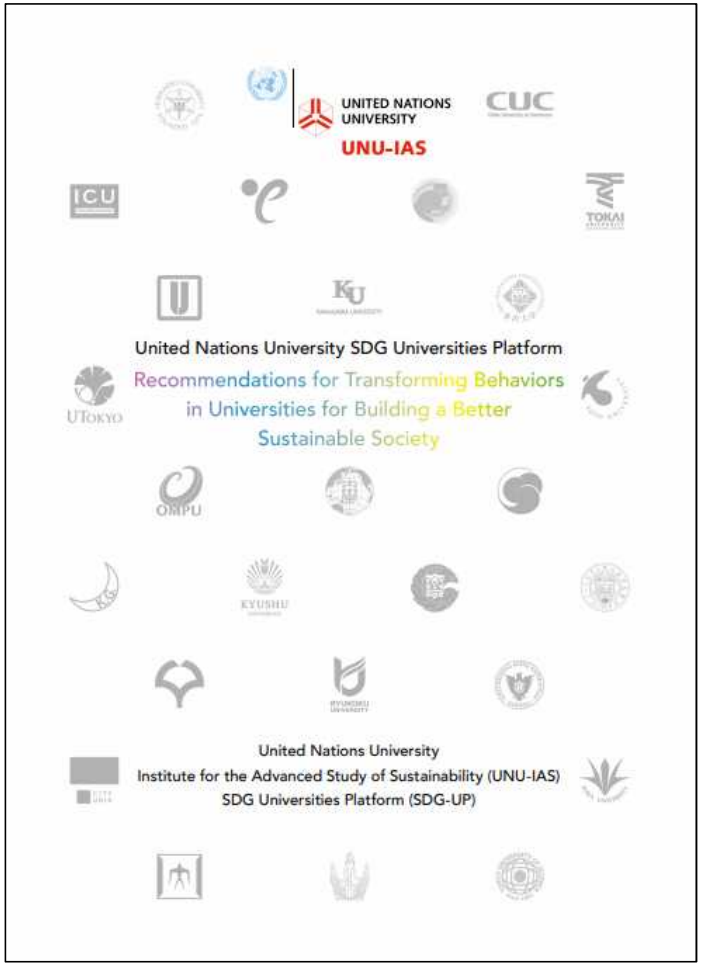
SDGs推進に積極的な大学が連携し、取組みの共有、国際社会で活躍できる人材育成、国内外への発信を通じて、日本の大学のSDGsの取組み及びステークホルダーとの関係強化と国際社会でのプレゼンス向上を図ることで、日本及び世界の持続可能な発展に貢献することを目的とする。

概要

（1）設立：2020年10月
（2）主催：UNU-IAS
（3）参加大学　31大学（2021年9月10日時点）

愛媛大学、大阪大学、大阪医科薬科大学、大阪公立大学，沖縄科学技術大学院大学、お茶の水女子大学、上智大学、神奈川大学、金沢大学、関西学院大学、九州大学、九州産業大学、慶應義塾大学、北九州市立大学、国際大学、国際基督教大学、創価大学、千葉商科大学、筑波大学、東海大学、東京大学、東京外国語大学、東京工業大学、東京都市大学、東京理科大学、東洋大学、奈良教育大学、ノートルダム清心女子大学、広島大学、北海道大学、龍谷大学

国連HLPFサイドイベントでSDG-UPを紹介（2021年7月7日）



- 大学のサステナビリティ推進、行動変容のために必要な4つのテーマをワークショップで議論し、成果品を作成
  「大学マネジメント」
  「SDGsカリキュラム」
  「ファイナンス」
  「大学評価とアカウンタビリティ」

- High Level Political Forumの高等教育に関するサイドイベントにて、SDG-UPチェアが登壇

- THE “Impact Rankings” のアドバイザリーボードにSDG-UPチェアが唯一の日本人として就任

- 現在、「SDGsカリキュラム」「大学間等連携」「大学評価・アカウンタビリティ」「マネジメント層」の4つの分科会を開催。参加大学の一層の連携を図る

SDG-UP:持続可能な社会に向けた大学の行動変容のための提言

UNITED NATIONS UNIVERSITY
UNU-IAS

1. マネジメント

- 大学は、学生 - 教員 - 職員のサステイナビリティ活 動を推進するための大学内の役割を明確化すべきである。
- 大学は、持続可能な社会に貢献するため、大学組織・ 大学構内でのサステイナビリティ（脱炭素・人権尊重・ 多様性の促進）を率先的に推進すべきである。

3. ファイナンス

- 大学は、サステイナブルファイナンスを新たな資金調達手段として積極的に活用すべきである。
- 大学は責任投資を通じて、投資先の行動変容を促すことにも取り組むべきである。

2. カリキュラム

- 学生にサステイナビリティ教育を施し、持続可能な社会づくりの人材を輩出することは、これからの大学の使命である。
- そのために、全学生がアクセスでき、かつ特定の分野に偏らないサステイナビリティ・プログラム開発が必要である。

4. アカウンタビリティと外部評価の活用

- 「社会の公共財」であり、その活動には説明責任が求められていることを認識すべきである。
- 大学は教育研究活動を可視化する手段として、また、自己評価システムを構築して経営を改善し、行動変容を推進する手段として外部評価を活用すべきである。

UNU-IAS の「国連海洋科学の10年」への貢献について

■ 社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ（SEPLS）の保全管理の推進

- UNU-IASは、人と自然の関りを重視した社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ（SEPLS）の概念を構築し、陸域および海域生態系の保全管理や効果等に関する研究を実施。
- さらに、SEPLSの保全管理に関する国際パートナーシップとして、SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ（IPSI※）を環境省とともに立ち上げ、その事務局として世界中の保全管理事例を収集。
  ※国際機関、政府、NGO、大学等の279の組織がメンバー。UNESCOも主要なメンバー機関。
- こうした取組の成果をもとに、生物多様性条約の海洋関連議題や、ポスト2020生物多様性枠組の議論にも積極的に専門的知見を提供するなど、国際社会における海洋とりわけ沿岸域の保全管理に貢献。

■ 国連海洋科学の10年に関する研究会への参画

- 日本海洋政策学会と笹川平和財団海洋政策研究所の共同事務局による、「国連海洋科学の１０年に関する研究会」に専門家として参画。
- これまでUNU-IASで蓄積してきた里海（seascape）関連の知見の提供や、研究会で編集した『国連海洋科学の10年 わが国の取組み事例集』への活動事例の提供を実施。

■ 沿岸域及び海洋生態系の回復に関する貢献

- 2021-2030年は、国連生態系回復の10年でもある。沿岸域及び海洋は重要な生態系タイプの一つとして、掲げられている。
- UNU-IASは、国連生態系回復の10年に関し、国連大学全体のフォーカルポイントを担っており、今後、この10年の活動を推進するUNEP、FAO、UNESCOなどの機関と協力しながら、生態系回復に関する研究や政策提言の実施・取りまとめ、アウトリーチ等の活動を進めていく計画。

Stay Connected with UNU-IAS

Visit us at ias.unu.edu

Thank you!

Shinobu Yume Yamaguchi
Institute for the Advanced Study of Sustainability
United Nations University

15 September 2021